参考資料１

令和２年度第３回　広島城のあり方に関する懇談会　議事要旨

１　懇談会名称
広島城のあり方に関する懇談会

２　開催日時
令和3年2月2日（火）14:00～15:45

３　開催場所
JMSアステールプラザ4階　大会議室

４　出席委員等
⑴　委員
三浦正幸委員（座長）、大庭由子委員、本田美和子委員、髙田義治委員、平野公穏委員、飯田稔督委員、上田宗篁委員（上田宗冏委員代理）、金城一国斎委員、角倉博志委員

⑵　オブザーバー
広島城館長、広島市緑政課長

⑶　事務局
広島市市民局　市民局長、文化スポーツ部長、文化のまちづくり担当課長　ほか

５　議事（公開）
⑴　広島城天守閣の木造復元を目指す上での検討事項
⑵　懇談会の進め方について

６　傍聴人の人数
３人（報道関係者を除く）

７　懇談会資料名
・広島城天守閣の木造復元を目指す上での検討事項【資料1】
・懇談会の進め方について【資料2】
・令和2年度第2回広島城のあり方に関する懇談会　議事要旨【参考資料1】

８　議事要旨
⑴　広島城天守閣の木造復元を目指す上での検討課題　及び　⑵　懇談会の進め方について

（三浦座長）
・議事⑴「広島城天守閣の木造復元を目指す上での検討事項」及び⑵「懇談会の進め方について」は、併せて説明をお願いする。

（事務局）
－ 資料について説明 －

（三浦座長）
・事務局の説明を補足する。８ページに表があるが、ここに①で天守閣と東走櫓と南走櫓の資料について実測図５枚と書いてあるが、枚数ではなく内容が重要である。
・広島城天守については１階から５階までの各階の平面図、断面図が縦と横方向２枚、立面図が南立面図と東立面図の２枚が残っている。東走櫓については天守と一体となっており、２階の平面図及び断面図、立面図が残っている。また、南走櫓についても天守と一体とな

っており、平面図及び断面図、立面図が残っている。ただし、東走櫓はほぼ全長が原爆で倒壊するまでは残っていたが、南走櫓については、明治の初めに南小天守を取り壊した際に、南側半分を取り壊し、北側半分が残っていた状態だったため、残っている図面も北側半分のみとなっている。これからは資料を作成する時には、平面図何枚などとそういう書き方をして欲しい。

・戦災等でなくなった天守、旧国宝天守の中で、残っている実測図面等に関して、広島城は名古屋城に次いで非常によく残っている。裏御門については、正保絵図に２階建て櫓門と書かれていて、１階部分の城門部分だけ戦前に撮影された写真が１点のみ残っている。ただし、２階がなくなった状態だから、完全なものではない。

・次に、９ページ目の補足をすると、これから作成する資料では、学術的用語で統一して欲しい。天守や小天守の規模を言う時に、外側の屋根を数える時は重なるという字を使っている。今回の資料は、これを層と書いているが、これからは五重と書いてほしい。それから、江戸時代からの伝統的な読み方としては、小天守（しょうてんしゅ）ではなくて、小天守（こてんしゅ）と言っていたため、そのように呼んで欲しい。

・９ページの二つ目の丸のところで、広島城の場合は小天守が二基つながっていると書いてあるが、類似例は他になく広島城だけである。天守と小天守や櫓が連結しているものは、その形態によって四つの形式に分類される。これは昭和戦前の分類方法だが、天守と小天守が渡櫓、櫓で連携されていることを連結式という。通常は一つしか付いてないので、連結式というが、広島城は二つあるので、複数の連結式ということで複連結式という学術用語がわざわざ広島城天守のために作られた。ほかに該当するものはなく、命名するほど価値があった。

・三つ目の丸の最後のところの広島城天守の話だが、関ヶ原の戦い以前の城郭としては、大規模なものであると書いてあるが、関ヶ原の戦い以前の天守建築においては、当時、小天守を合わせて天守建築として全国一だった。天守だけで比べると豊臣大坂城天守の方が大きいが、豊臣大坂城天守には小天守はなく、２基の小天守を従えた広島城は当時、全国一位であると言ってよい。

・また、広島城の二つの小天守は三重であり、一般の城の天守規模と同等である。一般の天守と同じ規模があっただけではなく、全国、現存１２天守の中の小さい方の天守と比べた時には、広島城の方が上回ることになり、極めて大規模であると言ってほしい。

・今回は、論点は全部で三つ。独立しているような論点となっているが、お互いに関連しているようなところもあるので、論点１から３まで、特に区別されなくても構わないので、意見を言っていただきたい。

・今日、皆様方の意見を集約して、次回３月の時に最終的な意見集約を行いたい。今日が広島城の将来を決定する重要な懇談会となるので、是非とも皆様方には、忌憚のない意見を言っていただきたいと思う。

（金城委員）

・まず論点①について、前回の懇談会において耐震改修工法比較表で４つの工法が示されたが、耐震基準を満たす３つの工法の改修期間は着手後６年が必要とのことだった。費用の二重投資ということを考えると、当面は改修せずに開館を継続して、三の丸の展示施設が開業予定のタイミング、令和６年度までに木造復元に向けて様々な課題を解決した上で、現天守閣を閉館してはどうか。

・論点②の展示収蔵機能の確保については、耐震改修にせよ、木造復元にせよ、いずれも展示・収蔵スペースの減少が見込まれる。三の丸のにぎわい施設の整備に当たっては、飲食・物販施設だけでなく、充実した規模、内容を備えた展示収蔵施設も併せて整備することが望ましい。広島の歴史・文化の発信を継続的かつ発展的に行うことが、最も重要である。

・論点③の復元の範囲については、天守閣に加えて、小天守、走櫓、中御門、裏御門についても木造復元に向けて、調査検討を進めて欲しい。ただし、根拠資料の不足により木造復元が難しい場合には、復元的整備でもよいと思う。

（平野委員）
・論点①については、金城委員と同意見で当面耐震改修は不要だと思う。二重投資というのは考えるところがある。閉館すると年間30万人の来館者を遠ざけてしまうが、経済効果を考えたときに抜本的な解決策ではないが、三の丸に展示収蔵施設をできるだけ早く建てて、現在の広島城にある主要展示物を移動して、こちらで展示していただく。天守閣については、建替えまでは、滞在エリアを限定的にするとか、滞在時間を制限するということで、リスクを減らしていくということも考えられるのではないか。
・木造復元後の天守閣は建物をしっかり見てもらい、三の丸では収蔵資料を見てもらうという役割を明確にしていくことが、回遊性を考える上でも大変重要になる。論点②にもつながるが、三の丸に造る展示収蔵施設は、博物館的なしっかりしたものがよいのではないか。収蔵物を入れるだけではなく、歴史ゾーンとして、和菓子を提供するような飲食店や、インバウンド向けというわけではないが着物を着る体験、VR体験ができるようなパビリオン的な位置付けというのもある。今後、中央公園、旧市民球場跡地辺りも整備されるが、そことのすみ分けという部分でも三の丸では歴史に特化したような展示をして、小さなホールでもあればそこで、神楽なども考えられる。
・論点③について、小天守などどこまで復元するかだが、予算的な部分が非常に大きな問題になってくる。予算を考えなければ、やはり唯一被爆した広島城を復元していただければ非常に大きな観光コンテンツになる。

（飯田委員）
・論点①は、二重投資になるので、耐震改修工事はしない方が望ましいと思う。30万人の観光客を遠ざけることになり残念だが、耐震不適格であれば安全上は閉館するのかと思う。人の命に関わることで、市が責任をとるとおっしゃるなら、その判断にお任せする。
・論点②だが、隣の中央公園広場エリアのことを考えると、三の丸にはしっかりとした展示・収蔵に特化した一つの博物館のようなものを造った方がよりふさわしく、回遊性も高まると思う。
・最後の復元の範囲は、復元できて、且つ予算的に、収支的に、最も価値のあるところを目指すべきだと思うが、部分的に復元するという手法がとれるのかどうか。また、全体を目指すとどのくらいの年月がかかるのか。そういうことがないと、なかなか判断が難しい。

（角倉委員）
・耐震改修するかどうかについては、基本的に耐震改修を実施した場合には、経済的効果を問うことになると思うので、木造再建着手は相当先になって進めるという意見が出てくる。つまり、結論を言うと耐震改修はするべきではない。
・広島城を閉館するかについては、来館者の安全を優先して閉館する方向で検討すべきだと思う。
・木造再建の場合、工事着手まで最長８年、場合によっては、その程度閉館することになると思う。年間30万人の観光客が来ているが、今のコロナの影響でどうなるか分からず、雰囲気的には国内、特に海外からの来館者はあまり見込めない。
・三の丸や中央公園の賑わいに期待できるものがあり、木造再建着手まで天守閣が今のまま建っているのであれば、影響が相当に軽減できるのではないかと思う。中央公園の来訪者要素、色んな数字を出して検討してみてもよい。また、三の丸が使えれば一番よいと思うが、広島城の展示物について閉館期間はどうするか、市内の他の施設等で仮展示できない

のかといったことがあるが、学芸員さんの考えも知りたい。
・閉館を基本とした中で、木造再建着手までの期間短縮、あるいは、閉館期間、閉館方法など現実的な方策も含めて考えていくべきだと思う。木造再建の工事着手まで、開館を続けるとなると当然、観光面への影響はある。やはり、来館者の安全をどう考えたらよいのか。公共施設で施設更新の着手までに、開館を続ける学校などがあると思うが、具体的にどういう施設があるのか。
・復元の範囲については、天守だけの木造再建費用がとりあえず出たと思う。当然、これより費用が増加すると思うが、文化庁の許可がおりて財政的にも可能であれば復元的整備あるいはコンクリート再建でもよいので、二つの小天守あわせて再建できれば極めて壮観であろうと、非常に望ましいとは思う。ただ、具体的な詳細がまだ分からない状況のため、ただの感想である。

（三浦座長）
・木造再建には、まず計画を作って文化庁の許認可を得なければいけないが、最長で４年ぐらいかかる。その後、現在の鉄筋コンクリート造の天守閣を取り壊して、その後、木造再建すると、大体４年ぐらいかかる。どの時点をもって木造再建着手というかはあるが、実際の工事は４年より後になる。それまでは手続、調査等の問題になるので、８年間ずっと閉館というわけではない。着手まで８年ではなくて、完成まで８年以上と思ってほしい。

（角倉委員）
・工事着手という面で４年後ということか。

（三浦座長）
・現天守閣取り壊しから着手だが、４年後にできるわけではなくて、一番早くスムーズに行っても４年はかかる。工事着手に４、５年くらいはかかるだろう。

（大庭委員）
・論点①だが、極力、閉館の期間、あるいは閉館した雰囲気を発信しないように何とかならないか。以前も申し上げたように、県内の学生達が広島城の存在すら知らない状況がある。小学校の遠足に行ってどこにあるのかという状況だから、極力、発信力を絶やさない方向で動いていただきたい。リピーターや若い人たちがそっぽを向き始めると、将来の修復などにも関わってくるので、こんな風にして修復に動いていると、これまで以上に発信力を強めていただきたい。工事の都合によっては一時閉館せざるを得ない期間も発生すると思うが、そこに行けば、バーチャルリアリティーで修復前の姿と、修復後はこんな姿を目指しているということを、誰もが体感できるような施設が簡単にテンポラリーにできると思う。そうやって発信し続けて若い人たちを引きつけないと、他から来るということがもっと望めなくなる。やはり発信力を絶やさないということが大前提だと思う。
・展示収蔵機能についても、広島城の素晴らしい収蔵品が県立美術館とかで展示できれば、何々展、是非行きましょうこの機会に、となる。これも発信力だ。県民に向かって発信を続けることによって、広島城はこんなにダイナミックに動いているのだと。まず機運が一番大事だと思う。
・復元範囲についても、今まで以上に物理的に大きくなるとなお良い。素晴らしいお城をもっと見直そう、知ってもらおうというぐらいの拡大路線で発信力につなげていくという意味で、論点①②③を考えればよいと思う。展示収蔵に関しても、ここに行ったら見ることができるということを発信し続けないといけない。単なる保管庫ではない。
・防災のことが非常に心配で懸念されるが、資料３ページにあるように、耐震化の実施に当たっては、観光施設より学校や公民館等の施設を優先しているということは、まだ耐震工

事が終わってない施設も現在使っているということになる。そうすると、完全にクローズしないでも一部を上手く発信して公開しながら、完全クローズをしないで、もしこのコロナ禍が収まったら、少しでも発信力あるいは受け入れるという姿勢を示すことは不可能ではないと思う。

（本田委員）

・論点①で、耐震改修するのはどうかという風に皆さん言われていて、そのとおりだと思う。天守閣の再建の話の方向になるまでに耐震改修をやるべきなのか、それなら最初からしない方がよいと思う。
・であれば閉館するのか、開館しながらというところだが、その前に論点②に関わってくるが、どちらにして天守閣を再建する時には、天守閣を壊さないといけないので、当然資料を出さないといけないということになる。天守閣を壊す前に別に展示収蔵機能ができていないと面倒なことになる。それがスピーディーにでき、天守閣から展示機能を移すことができれば、閉館するにしても、危険な状態でお客様に来ていただくとしても、その期間をぐっと短くすることができるので、急いだ方が好ましい。今の天守閣を壊すために、収蔵品を出すといっても、出す準備が必要になり、その準備のために１年くらい休館しないといけないかもしれない。準備のための休館期間というのも必要である。
・その展示収蔵機能だが、三の丸でどのぐらいのスペースが確保できるのか分からないが、一番好ましいのはかなりのスペースを取り、しっかりとした建物を建てていただきたい。現天守閣は、収蔵スペースが90㎡しかない。この収蔵スペースに入って行き、あの資料が取りたいとなっても、その前にあるものを全部出さないと奥に行けない。90㎡では全然足りず、最低でも500㎡は必要かと思う。
・今の展示面積を確保して、かつその他に本来天守閣に備わっている、例えば、学習交流機能などを充実させると、もっとスペースが広がるので、かなりの広さが必要になる。それが三の丸で全面的に確保できるか分からないが、もしそれが難しいということであれば、懇談会当初から、二の丸に一部展示機能を移すという話も出ていたので、そうすれば、新しい建物でもう少し展示スペースを少なくすることはできる。隣のサッカースタジアムの近くにも飲食スペースがたくさんありそうな感じなので、三の丸では、展示スペースを大きくしていただいた方がよいと思う。
・復元範囲については、全部できれば非常に素敵だが、最低限で言えば、東小天守と南小天守を復元すれば価値も上がると思うし、他の委員の意見にもあったが、観光的な価値が全然違うと思う。今の建物は過去の姿ではない状態で復元されているので、予算の問題があるが、小天守も再建すれば完璧なものになるので、非常に価値は高まると思う。
・先ほど、広島城の展示を他の施設で展示できないかという話があった。各々の館と事前に相談する必要はあると思うが、郷土資料館を含めて不可能ではないと思う。

（上田委員代理）

・主に論点②と③についてだが、今回のこの天守閣の木造再現が、ただ単に木造で再現するというよりは、それを起点として城下町をつくっていくという大きいイメージであった方がよいと思う。その方が情報が国内外に発信されたときのインパクトも強く関心も高まりやすいのではないかと思う。
・いずれにしても何か手をつけていくとなると、どうしても閉館だったり、展示物の一時保管だったりという部分が問題になってくると思うが、こういう時は、マイナス要素をいかにプラスに変えていけるかが非常に大事になってくると思う。例えば、全体のアウトラインとして、城や城下町ができていく過程を県民市民、観光客の方が追体験できるような考え方で工事や改修を進めていくという考え方もあると思う。
・物自体が出来上がってそれを見てもらうことも大事だが、ストーリーがないと、実際に理

解だったり、その方の学びにつながっていかない部分もあると思う。そこのことを考えるとやはり、例えば城下町という括りでこの計画を進めていく方がポジティブだと考えた。
・天守閣の再現と、歴史的文化的な情報発信ができるような施設というのは対である。その中で、展示施設がないから展示施設を造るという考え方よりは、何のためにそれをするのかに着目する方が大事である。広島の歴史文化を知ってもらうことが目的であって、博物館施設を造ることはあくまで手段になる。展示物を見ていただくということもとても大切。その中で、その施設自体が、全体の中でも非常に、強いポイントになるような施設になるように考えていくと、良い施設ができると思う。
・具体的に展示施設に関しては、スペースが実際にどれくらいとれるのかということや、先ほどからお話が出ているように他の施設でどういう条件であれば補完ができるのかということが見えてくると、費用だったり、どのような用途だったりという部分も具体的に分かってくる。
・復元範囲については、小天守の存在は非常に大きな長所だと思うが、８ページの①から⑤までの復元の可能性についての資料の中でも、小天守が復元できる可能性というのは、どれぐらい見込めるのかという疑問がある。
・また、皆さんおっしゃるように忠実な再現が可能であれば、やはり国内で最も古い様式を伝える天守になっていくということを考えると、出来るのであれば再現した方がよい。

（三浦座長）
・展示施設について、展示するだけではなく情報発信が大事とのことだが、具体的にどのようなことを考えられているか。

（上田委員代理）
・上田流和風堂では、年に１度ぐらいのペースで、特別公開という企画をさせていただいている。和風堂は博物館というわけではないが、展示物だけを見ていただくのではなくて、建物を当時の歴史の流れで、お客様に通っていただきながら、実体験をしていただくことで歴史文化を知ってもらうという手段をとっている。いかにそこにいらっしゃる方が自分の実体験として経験できるかどうか。歴史文化を知っていただくという目的に対しての手法は色々なことが考えられるのではないかと思う。

（髙田委員）
・ほとんど意見が出尽くしているのかなと思うが、論点①については、来館者の安全性が一番気になる。これは、広島市が判断するのかどうか分からないが、耐震改修せず、閉館しないで木造再建着手まで開けて見学が出来るのであれば、観光客を誘致する上ではよいと思うが、一番気になるのがリスク部分である。例えば修学旅行で、子供たちに怪我をさせてはいけないので、そういうところが一番心配だし、南海トラフとかも想定されているので、十分、先を見て判断していただいてもよいのかなと。観光よりも大事だと思う。
・展示については、三の丸にスペース的な問題がなければ、収蔵していただき、歴史博物館として、入場料が取れるような施設として欲しい。
・復元範囲は、全体的に俯瞰しないとよく分からないところもあって、広島城だけをとって考えたらよいのか、サッカースタジアム、その周辺施設、地域がどう動いているのかという部分も考えたらよいのか、いずれにしても、それぞれのスケジュール感を持って動くことが大事になってくる。
・我々旅行会社もそうだが、来年、オリンピックがあると言ったら、それを目掛けてプロモーションをかけていくし、ＤＣキャンペーンがあると言ったら、それに向けて、誘客の計画を練っていくし、そういったスケジュール感が大事になる。サッカースタジアム等がいつオープンして、三の丸がいつオープンして、それから少し離れるが、宮島の鳥居の幕が

いつ取れてお披露目できるのかといった広島県全体の計画の動きが分かれば、観光の誘致をしていく計画は、練りやすいと思う。
・例えば、サッカースタジアムも、どういう形のサッカースタジアムができるのかという細かな青写真を私は見ていなくて勝手に申し上げるが、三の丸に歴史的な時代背景の施設があれば、サッカースタジアムの形もそういうデザインとして、全体的な統一感を持たせた方がよいと思う。何か傾いたときに全体で勝負していけるというものを持っておいた方がよい。一つこけてしまうと全部こけてしまうようなことは避けて、全体の統一感、そういうデザイン性のある施設、まちづくりにしていただきたいという希望がある。
・私はデジタル推進審査員もしており、その中で、吉田の郡山城が今年、毛利元就の没後450周年で、色々な取組が考えられている。私も見て、なるほどと思ったのが、ＣＧによるＶＲ再現を使って、お客さんにガイドをするという取り組みを検討されている。あそこは天守閣も何もないが、実際にそこの山に向かってiPadを向けたら、ＣＧで復元された天守閣が現れ、そこでガイドさんがきちんと歴史的な背景も説明するというツアーを実施されるということを聞いている。
・それと広島と言ったら、お城も多いと思う。私も少しずつ広島を勉強しているが、平城とか山城、海城、そういった特殊なお城が広島県にはあるので、何かそこと連動したような、お城を見て回れるような、そういう周遊できるようなツアーみたいなものを開発しながら、天守閣はなくても、連動して見て周るツアーを続けていって目玉にするという方法もあるのではないか。

（三浦座長）
・復元範囲についてはどうか。

（髙田委員）
・広島城への入場をどこからにするのかによっては、お城全体に影響を与えている部分もあるので、やるのであれば一緒にする動きなのか、小出しでやっていくのか、そのスケジュール感も分からない。
・ただ、思いとしたら、日本一の景観に持っていくためには、全てを復元することは希望する。全部を入場制限して止めてしまうのか、ここの門を開けているのでここは入れますとそういう流れなのか。その辺のそれぞれ一つ一つのスケジュールが分かれば組み立てしやすい部分もあるが、希望としては全部復元である。

（三浦座長）
・皆様の意見としては、現天守の耐震改修は無駄になるから必要はないということだった。ただし、木造再建をする場合、その間天守を開館しているのか、もしくは閉館するのか、要するに部分的な耐震改修をするかどうかということだが、これについては意見が分かれている。
・髙田委員の御意見だと、ＶＲ、ＣＧ、特にＶＲが最近盛んになっていて、日本全国の城跡でＶＲを作成して、現在石垣しかないところにスマホ等を向けると、石垣の上にスマホ上でかつての建物が出てくる。そうなると、例えば、天守改修中、もしくは閉館中でも天守にスマホを向けたら、かつての雄姿が小天守も全部含めて揃っている。もちろん、ＶＲ、ＣＧであれば、今はなき本丸御殿等全部作ってしまうことも可能なので、そういった別のおもてなしの仕方によって、観光もしくは見学に来た方々に情報提供することは一応可能だと思う。
・耐震改修をしない場合に、開館しておくのか、もしくは閉館するのか、なかなか判断しにくいところだが、大庭委員の御意見では、広島市全体で耐震改修をしない順番があるので、耐震改修をしないがやむを得ず使用している施設がかなりありそうだと。なおかつ天守の

ような観光施設に関しては、学校や公民館といった公共施設の次になると。事務局には、市でどのような耐震改修の計画があるのか、大筋を次回で示していただければと思う。
・そうすれば、天守を開館するか、閉館するかという判断が的確にできるのではないかと思う。それから、耐震不適格な建物を使用し続けることについて、市としてはどのように考えているのか。大地震等があって、この天守閣が倒壊したときに人命が失われることは絶対避けなくてはいけないので、もし万が一のことがあったときに、被害を最小限に抑えるような対策ができるかどうかも検討してみる必要があると思う。
・三の丸の収蔵施設については、全体として、しっかりと充実したものを作ってほしいという皆様の御意見だった。政令指定都市の中で歴史博物館がないのは極めて恥ずかしいことなので早く作った方がよいという発言は、以前から耳にしている。今回三の丸の展示施設について、広島市の歴史を示す歴史博物館とするのか、それとも広島城の歴史だけを説明するものとするのか、その辺のところが、今日の懇談会ではまだ決まっていないような気がするが、どうか。

（金城委員）
・博物館には、歴史博物館、民俗博物館など色々な博物館がある。今回、三の丸の展示収蔵施設に関しては、やはり広島城にまつわる歴史的な収蔵品の展示に特化するべきではないか。例えば、広島県立美術館、ひろしま美術館、それぞれに特色がある。仮に広島の歴史博物館という広島の成り立ちからの博物館になると、古墳時代からずっと遡って展示する必要があり、かなり大規模な博物館が必要になる。その場所や意義を踏まえ、広島城にちなんだ武家文化の継承に関する資料を展示する。広島城には学芸員がいるので、しっかり議論を重ねた上で、どのような特色のある博物館を作りたいか検討すべき。

（三浦座長）
・広島城に特化するという考え方は非常に魅力的な話である。その際、武家文化だけでなくて、城下町に住んでいた町衆の文化、これは武家文化とは違うので、広島城及び城下町に関する総合的なことが分かるようなイメージでよろしいか。そういった意味で三の丸の展示収蔵施設の充実を図る。この点に関して他に御意見はあるか。

（上田委員代理）
・やはり何かテーマがあった方がよいので、城をテーマにした方がよいと思う。一口に城と言っても、時代によって、その切り口からいろんな展開を考えることができると思う。また、金城委員がおっしゃった武士武家、これは強みになるので、方向性としては、その方がよいと思う。

（三浦座長）
・展示は充実すべき、広島城の歴史と文化に特化した展示施設であるべきという御意見だった。御賛同いただけるようであれば、その方向で３月に集約させていただきたいと思うが、よろしいか。異論なしということで、広島城の歴史と城下町の文化、武家文化と町衆の文化になると思うが、そういったものを総合したような広島城に特化した資料館として充実するということが皆様の御意見だった。
・３番目の論点の復元の範囲だが、小天守については予算のことがあるので断定はできないが、皆様方の御希望では小天守までは再建した方がよいということだった。文化庁の審査を通すときに、天守と走櫓までは資料が第一級に揃っているから、全国の天守の中でも復元できるのは４か所しかないが、この４つのうちの一つ、もちろん名古屋城と広島城だけになるが、全国でたった２例の復元ということになる。
・小天守に関しては資料が若干少ないので復元的整備になると思うが、復元と復元的整備を

同時に進めた例というのはおそらく今後永久にないと思うし、また初めてのことなので、結構難題があると思う。同時にできるかどうかは今後、文化庁との協議折衝等があるが、皆様方としては予算がなんとかなれば小天守まで再建したいという御意見だったと思う。
・その他、中御門と裏御門については、全部再建すべきだという方もいらっしゃったが、この点についてどうか。もちろんこれは同時にやれというのではなくて、広島城の整備基本計画の中で、広島城の復元整備の最終的なイメージとして全てを再建するということになっており、天守の耐震不適格及び老朽化等の問題とは関係ないが、スケジュール等について何か御意見はあるか。

（大庭委員）
・先ほど申し上げたが、極力、拡大路線でお願いしたい。耐震対策にも関わることだが、公園全体を巻き込んだ一大プロジェクトになることは必須なので、裏を返せば、城下町的にそういった門がいろいろあって、あの辺りが広島城のエリアだという範囲が広ければ広いほど一大防災拠点になる。私は3.11（東日本大震災）を経験している。一大防災拠点があそこだと、そこに人々が来て、それこそ何かの支援が受けられるというイメージが生まれるという隠れた効果もあると思う。
・震災が心配という方が多いと思うが、そうであれば、先ほど御意見があったように、危機の時もプラスに転じる方策として、確かに耐震対策はまだだが、だからこれだけ緊急脱出訓練をやっているということを発信材料にする方向で、一大防災拠点として更に拡大路線というのはどうか。そういった考え方はおかしいだろうか。

（三浦座長）
・大変魅力的な話である。拡大路線には大賛成で、今回、建物復元について裏御門まで挙げられているが、広島城は非常に大きな城で、かつての城の範囲は大体１キロメートル四方ぐらいあり、江戸時代に存在した全国の城郭の中ではトップ10に入る超巨大城郭であった。
・通常の城は500メートル四方ぐらいだから、広島城は通常の城の４倍ぐらいの面積になる。ただし、現在、市街地の中に埋もれてしまっていて、かつての日本屈指の大城郭のイメージは全くないが、本来、広島城の魅力、最大の特徴である広さを示すためには、城下町の遺構について、復元するだけでなく例えばVRを使うとか、案内板等により広島城の範囲を示すとか、現在の史跡指定地以外のところの情報発信等をすべきである。
・それはこの懇談会の議事範囲を逸脱しているが、天守再建となれば、その整備のための委員会等が必要になるので、その場で大庭委員がおっしゃられるように、広島城全体の最終的な整備イメージを是非提示していただいて、その中で全体の姿を出していただきたい。
・拡大路線には大賛成だが、予算やスケジュールの問題があり、裏御門まで同時進行は到底無理である。これからどのようなスケジュールで建物等を復元する、もしくは復元しないのか、その辺については、大体どれぐらいの年次計画で、例えば中御門等はこのあたりで再建するなど、長期計画で提示していただければ幸いである。

（本田委員）
・中御門を再建すること自体は非常によいことだと思うが、一つ気になることがある。中御門は被爆以前は大体姿が残っていて被爆したときに炎上し、その痕跡が石垣に残っていて、いわゆる赤く焼けた状態で被爆の痕跡として残っている。日本中で被爆の痕跡を残している城はおそらく広島城だけだと思う。近世城郭の中では広島城だけということで、非常に重要なポイントとしてガイドしている。中御門を再建するときには留意していただきたい。
・もう一つは石垣が少し弱っているのではないかという気がするので、もし外すということになったら、その被爆の痕跡がなくなってしまうということになるので、その辺も踏まえていただきたい。

（三浦座長）
・表御門の裏側、つまり西側の石垣は、原爆で表御門が焼けた時に、その火炎によって凄まじく石が割れ、そのまま残っていた。ただし、表御門を復元する時に、その石垣の半分以上を新品に取り換えてしまい、元の石と同じ大きさではなさそうなところが若干見受けられる。
・中御門については、昭和戦後の石垣修理において、ちょうどこの建物が掛かっていたところの石垣は全て新品に取り換えられてしまっていて、中御門の前側のところは、本田委員のおっしゃるとおり、中御門が焼け落ちたときにその熱で石垣が傷んでいる。したがって、中御門再建においては、被爆した石材の取り換え等は多分ないだろうと。

（上田委員代理）
・長いスパンでの計画になってくると思うし、時間の経過とともに責任を持つ世代も変わってくる。根本的には、若者を中心とした地域の人達のために計画を立てていくことが大事である。これを達成することによって、この地域の説得力、魅力や誇り、また原爆ドームをメインとした復興を印象付ける都市としているのが、さらにそれ以前の歴史まで復興させることができれば、さらなる復興を印象付ける都市になっていけると思う。我々、上田流和風堂も、元々あった上屋敷を今の古江に再現したことで、歴史は根拠があれば埋めることができるということを大変実感しているので、そういった意味で、地域のため、人々のためにこういう計画を実現していくことは意義があると思う。

（三浦座長）
・天守に加え、小天守復元についても、積極的に賛同していただいたが、関ヶ原の戦い以前では、先ほど申し上げたように、大小天守が計３基建っていて、関ヶ原の戦い以前では豊臣大坂城を越えて日本第１位の規模だった。関ヶ原の戦いの後になって、姫路城と名古屋城が造られたので、姫路城と名古屋城には負けてしまうが、それでもこの天守群としての規模としては、日本第３位をそのまま維持していたとても格のある天守だった。
・広島市民の方々に、もう一つ実は伝えていただきたいことがある。姫路城は白壁がとても美しい世界遺産で、白鷺城と呼ばれており、白壁が非常に高く評価されている。それに対して、広島城は黒板張りで地味な感じがしており、古めかしいが美しさに欠けるのではないかという意見も若干耳にするが、実はそれは正しい評価ではない。
・正しい評価を申し上げると、どの本にも書いていないことだが、姫路城のような白壁の天守と広島城のように板張りにして黒く塗った天守、どちらの天守の初期投資が多かったかというと、実は黒板壁の天守の方が初期投資が高かった。今の姫路城は40ミリの厚みの近代的な漆喰の壁で、明治以後の近代漆喰を塗っているので耐用年限が延びたが、それ以前は厚さ３ミリの漆喰だった。土壁の上に厚さ３ミリの漆喰を塗るのと、土壁の上に非常に厚く立派な板を使い木組みをして板張りした場合、どちらが経費が高いか一目瞭然であり、広島城天守の外装の方がはるかにお金がかかっている。
・白漆喰が、非常に耐用年限が短くて吹き降りで雨が当たるとすぐ剥落してしまうことに比べると、板壁は100年以上もつので、ランニングコストを考えてみると広島城ははるかに合理的だった。広島市民も含めて全国のお城ファンに申し上げないといけないが、広島城の板壁は、姫路城の白壁よりもはるかに優れた、しかも高価な壁である。雨のかかる所、壁を守らないといけない所には板壁があるが、雨のかからない軒裏の近くは、板を張るとお金がかかるので、広島城天守でも板を張っておらず白壁だった。
・広島城天守を木造で再建するということは、実は姫路城よりもはるかに高級な天守を再現するという深い意義があることもあわせて、広島市民だけではなくて、広島藩は広島県全域、一部福山は抜けていたが、広島県で大きな範囲にあったのだから、県民の皆様に広く

知っていただかないといけないし、日本全国のお城のファン、歴史のファンに、広島城のことを高く評価をしていただく必要があるので、この類まれなる価値というものを強く発信していただきたい。

・天守の木造再建が、皆様方の大体の御意向なので、それがスムーズに、しかも市民県民の皆様に、全国の方々に望まれるような姿になってほしいと思うので、その発信について事務局に強く要望したい。

・論点３つについては、大体意見が出揃った。事務局に対する宿題が若干あるが、次回３月にもう一度懇談会を開催して、本日の皆様方の貴重な意見を集約した案を提示することになると思うがどうか。提示が時期尚早だということであれば考え直すが、今日の意見を集約したものを次回皆様方に提示することについて納得していただけるか。大丈夫だということなので、そのように進めさせていただく。日本の城郭、特に天守閣の歴史に関しては、広島城天守は日本で一番価値のある天守で、日本で一番価値のある天守を正しく復元するということが段々進んできそうなので、強く期待をしている。

（事務局）

・長時間の御議論、大変ありがとうございました。今回、論点①②③という形で提示させていただいたが、論点①に関しては、座長にまとめていただいたように、耐震改修に関しては必要ないだろうという皆さんの一致したお考えだと思う。閉館するかどうかに関しては、議論の中でもあったように、最終的には施設を所管する市として、安全面をどう考えるのかという問題になってくるので、引き続き論点として提示させていただくかどうかは市で預からせていただき整理し、その取扱いについて座長とも相談させていただきたいと思う。

（三浦座長）

・市の考え方、全体の耐震計画が分からないといけないので、次回提示していただきたい。

（事務局）

・本日はありがとうございました。